

## 4 緑化事業者が実感した緑化による効果の特徴

前項までに定量的に表せる緑化の効果を明らかにしたが、実施者はそれ以外にも緑化による様々な効果を実感している。しかし、その捉え方は植栽場所や植栽の動機など実施者側の事情に影響されるため定性的なものにとどまっている。

定量的に効果が発現している一方で、実施者には効果の実感が伴わないものや、事業メニューにより感じる効果も異なることが推察される。

このような認識のもと、実施者が感じた緑化による効果の把握を目的としたアンケート調査を行い、事業後に実感した効果の程度や感じ方の違いに対する定量的な分析を行った。

### アンケート実施内容

**対象者：**平成 28～30 年度の県民まちなみ緑化事業の実施者（重複団体を除いた 410 団体）

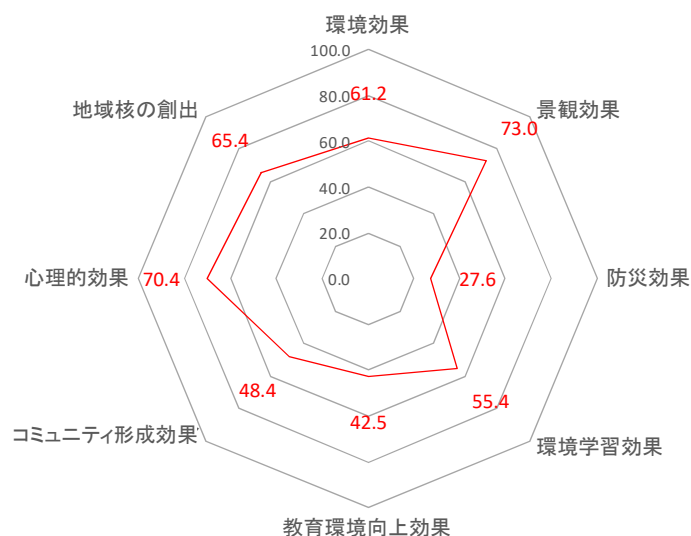
**回答数：**310 団体（回答率 75.6%）、353 サンプル（複数メニュー実施の場合は、異なる実施場所ごとにアンケートの回答を依頼）

**アンケート内容：**第 4 章第 2 節で示した緑が本来持つ 3 つの公益的効果、同第 3 節で示した緑の活用による 5 つの波及的効果の計 8 つの効果ごとに、当事業が目指す効果にかかる設問を設定。実施者は各設問について実感の程度を 4 段階（「あてはまる」、「まあ、あてはまる」、「あまりあてはまらない」、「全くあてはまらない」）で回答

**評価方法：**あてはまる＝3 点、ややあてはまる＝2 点、あまりあてはまらない＝1 点、全くあてはまらない＝0 点とし、効果の分類（8 つの効果）ごとに得点を集計し、満点に対する得点率で評価。

### (1) 事業全体の傾向

景観効果、心理的効果を実感した割合は高いが、防災効果は余り実感されていない。防災性の向上を期待して緑化事業に取り組むことが少ないこと、その効果を感じる機会が少ないことが推察される。



※各効果の分類ごとの満点（3点×3問×サンプル数）に対する得点率。

## (2) 事業メニュー別

事業全体の傾向と比較して、特に環境効果、環境学習効果、教育環境向上効果について、事業メニュー間で効果の実感に差が生じている。

特に、環境学習効果、教育環境向上効果は校園庭の芝生化で突出して効果を実感している割合が高い。

事業別に実感した効果を比較したところ、以下の傾向が見られる。

### 【一般緑化】

景観効果、心理的効果、地域核の創出について効果があったと感じる割合が高い。他の事業と異なり低木から高木まで様々な樹種を用いた立体的で存在感のある植栽であることや、サクラなど地域のシンボルとなるような樹種の選択など、目的に応じた樹種の選択に対応可能であるためと推察される。

### 【ひろばの芝生化】

防災効果を除く各効果を約6割が実感しているが、コミュニティ形成効果は他の事業と比べ、実感する割合が高い。地域住民が集う場所で実施事例が多く、緑化を契機にコミュニティ形成が促進されたと推察される。

### 【校園庭の芝生化】

環境効果、環境学習効果、教育環境向上効果を実感する割合が他のメニューに比べて高い。環境効果は、運動場の砂埃の軽減や面積規模が大きく地表面温度の低下といった効果を実感していること、環境学習効果や教育環境向上効果は、利用者である園児、児童などの様子を間近で確認できることから実感される割合が高いと推察される。

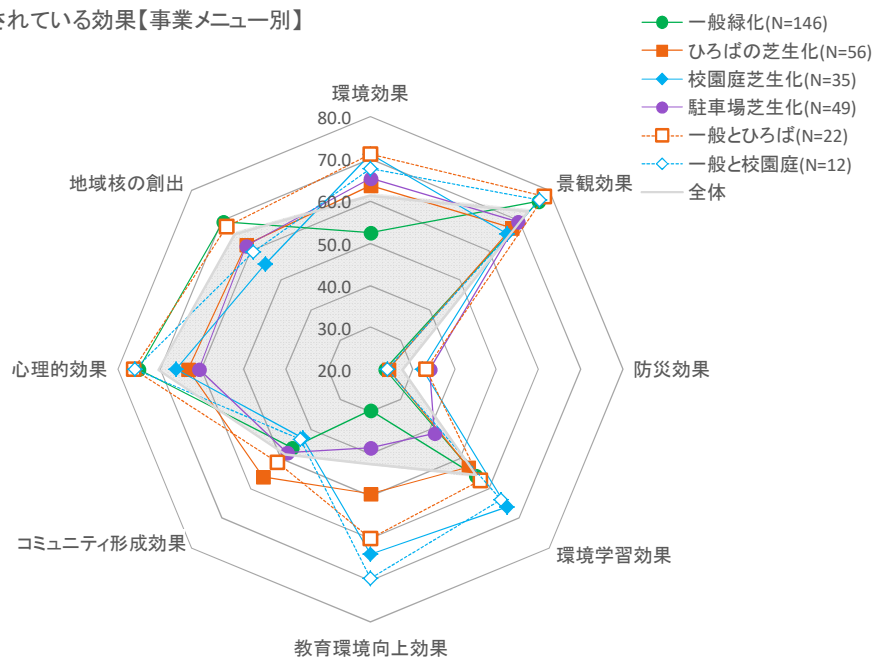
### 【駐車場の芝生化】

植栽場所や内容の特性から利用者が限定されることもあり、他の事業と比較して効果を実感する割合が相対的に低い。

### 【一般緑化とあわせてひろばや校園庭の芝生化を実施】

それぞれ単独で実施した時と比べると相乗的に効果が高くなる傾向がある。

実感されている効果【事業メニュー別】



※各効果の分類ごとの満点（3点×3問×サンプル数）に対する得点率。  
※合計サンプル数が10件未満の事業メニューは分析の対象から除外した。

### (3) 事業実施者別

環境効果や防災効果、環境学習効果、教育環境向上効果、コミュニティ形成効果について、事業実施者間で効果の実感に差が生じている。特に、学校園関連団体では環境学習効果、教育環境向上効果を実感する割合が高い。

事業者別に実感した効果を比較したところ、以下の傾向が見られる。

#### 【住民団体別】

景観効果、地域核の創出に効果を感じる割合が高く、まちなかの景観形成、地域の魅力づくりに貢献していることが伺える。

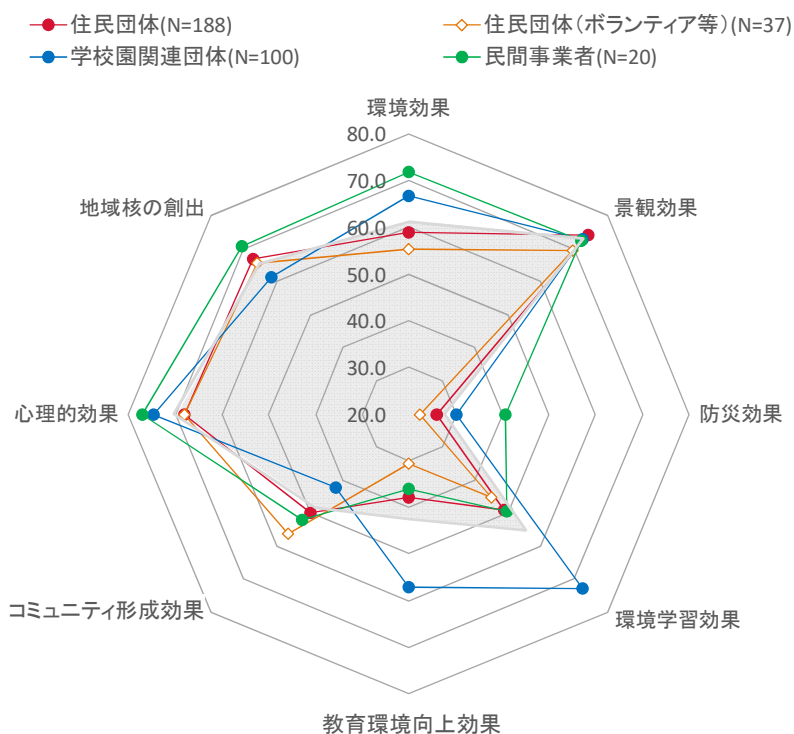
#### 【学校園関連団体】

環境学習効果、教育環境向上効果について、効果があったと実感している割合が他の実施主体より高く、事業目的に即した効果を期待どおり実感されていることが伺える。

#### 【民間事業者】

環境効果、防災効果、心理的效果、地域核の創出について効果があったと実感している割合が他の実施主体より高い。地域貢献という事業実施目的に即した効果が期待どおり実感されていることが伺える。

実感されている効果【事業者種別】



※各効果の分類ごとの満点（3点×3問×サンプル数）に対する得点率。  
 ※「その他」は、公園等の緑化ボランティア、その他実行委員会、等。

#### (4) 地域別

心理的効果や景観効果の実感が大きい一方で、防災効果、コミュニティ形成効果の実感が少ないという傾向の地域差は見られない。

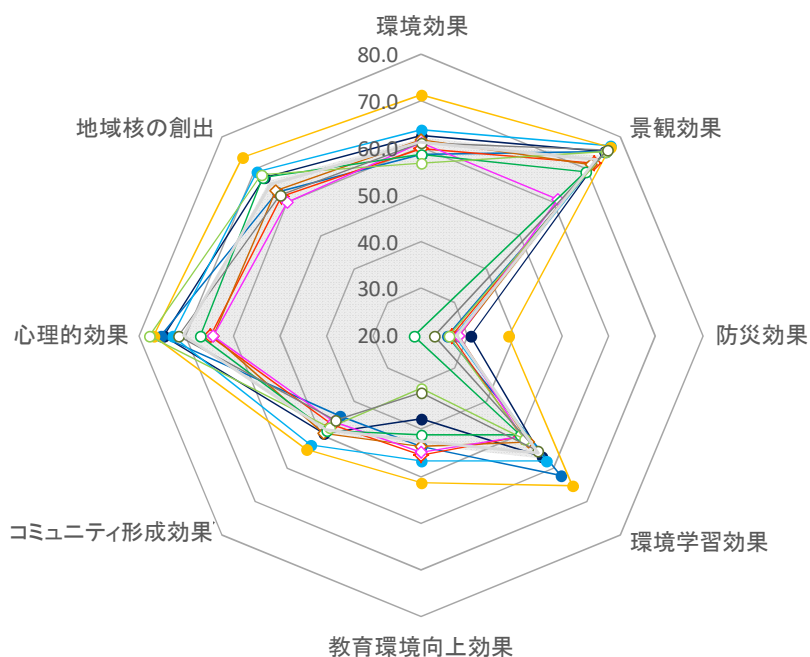
しかし各効果の実感の割合について、都市部とその他地域を比較すると、以下の傾向が見られる。

##### 【都市部で効果の実感が高い】

神戸、阪神南、阪神北、東播磨地域では、そのほかの地域よりも効果の実感が全般的に高い傾向にあることが確認できた。緑地率が低く、緑の量的確保が難しいこれらの地域での緑化は、他の地域と比べると効果をより実感されているといえる。

実感されている効果【地域別】

- 神戸(N=47)
- 阪神南(N=50)
- 阪神北(N=31)
- 東播磨(N=27)
- ◇ 北播磨(N=29)
- ◇ 中播磨(N=68)
- ◇ 西播磨(N=26)
- ◇ 但馬(N=28)
- 丹波(N=21)
- 淡路(N=18)
- 全体



※各効果の分類ごとの満点（3点×3問×サンプル数）に対する得点率。

## (5) 実感されている効果が高い条件とその要因分析

実感される効果が高い緑化事業のあり方を探るため、事業実施者が効果を実感している度合いの高い条件等の把握とその要因について分析した。

### ①分析方法

アンケート回答のあった事業実施箇所を下記の種別に分類し、その種別ごとに事業実施者が実感されている効果の違いについて分析した。また、各事業実施箇所の一カ所あたりの緑化面積等を整理し、緑化面積の違いによる違いについても分析した。

表 事業実施箇所の分類結果

事業実施箇所の分類(数字は箇所数)					
遊歩道	3	ひろば	47	社寺の境内	35
保育園	12	緑道・緑地	7	マンション	31
認定こども園	20	店舗敷地	9	事業所敷地	6
駅前	3	グラウンド	17	団地	8
墓地	1	小学校	44	中学校	20
空地	8	道路	9	小中学校	2
公共施設	6	公民館・集会所	63	河川	7
遺跡	2	工場敷地	1	個人宅	2
特別支援学校	1	公園	58	福祉施設	4
幼稚園	17	その他	8	大学	2
高等学校	14				

## ②分析結果

### 【多くの人々が往来する場所などで効果の実感が高い】

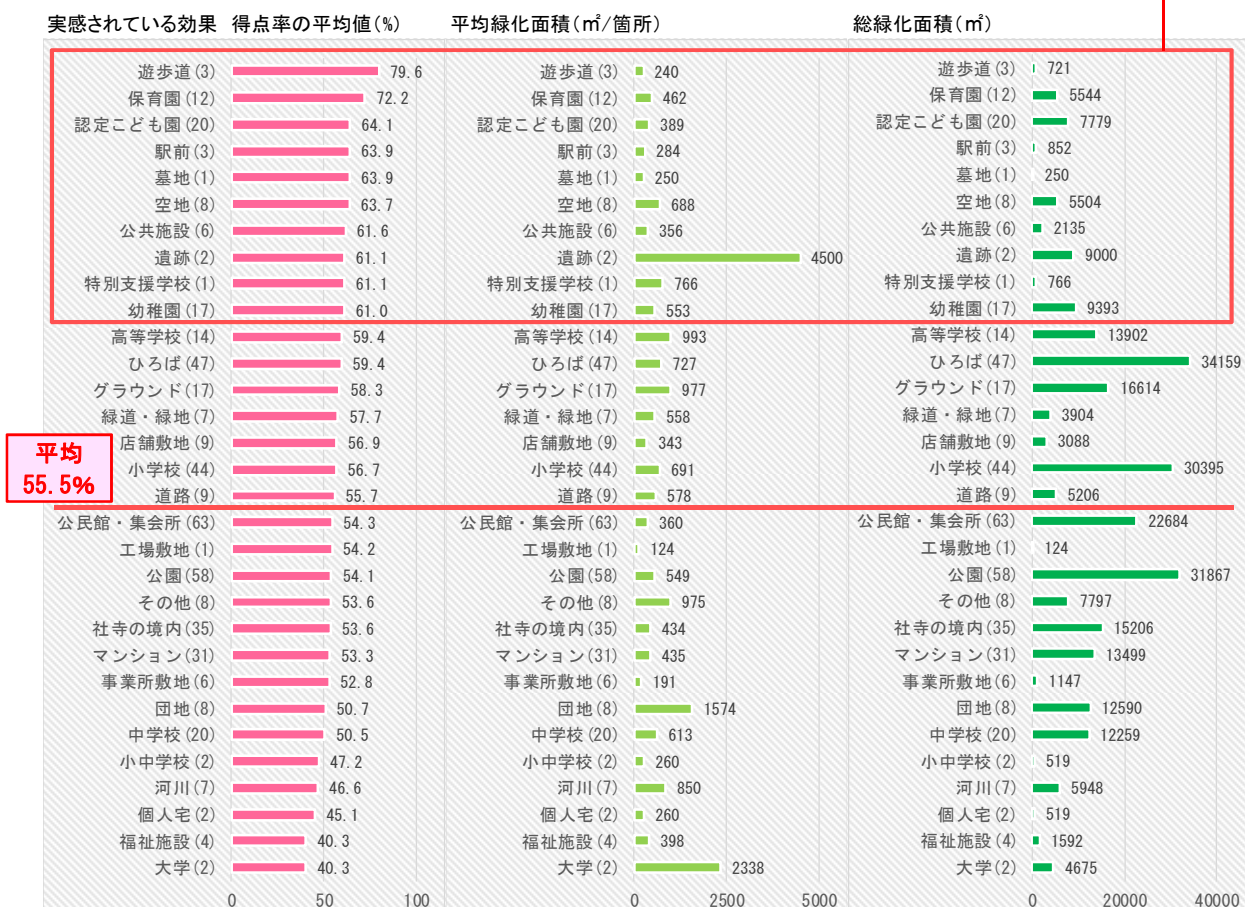
実感されている効果の高さを示す得点率の平均値が比較的高い（60%以上）事業実施箇所は、遊歩道（79.6%）、駅前（63.9%）、公共施設（61.6%）といった多くの人々が往来する場所や、保育園（72.2%）、認定こども園（64.1%）、幼稚園（61.0%）といった未就学児がかかわる施設、空地（63.7%）などであった。

平均緑化面積は概ね 250～700 m<sup>2</sup>/箇所程度となっており、比較的緑化規模が小さい場所も見られる。

### 【緑地面積の量的な確保に貢献】

事業実施箇所数が多い公民館・集会所（63箇所、54.3%）、公園（58箇所、54.1%）、ひろば（47箇所、59.4%）、小学校（44箇所、56.7%）などでは、実感されている効果の得点率の平均値は高くはないものの、総緑化面積が特に高く、緑地面積の量的な確保に貢献している。

相対的に得点率の平均値が高い事業実施箇所（60%以上）



※得点率: 効果の分類(8つの効果)ごとに得点を集計し、満点(72点)を100とした場合の得点率。

得点率の平均値は、実施実施箇所の分類ごとに算出。

※緑化面積は、芝生化については施工面積、一般緑化については樹木一本当たり面積を高木:10m<sup>2</sup>、中木:10m<sup>2</sup>、低木:0.5m<sup>2</sup>として算出

図 事業実施箇所ごとの実感されている効果の得点率の平均および緑化面積の状況

### ③分析結果の考察と今後の方向性

分析結果をふまえ、効果の実感が高い場所と低い場所を類型化し、効果の実感をより高めていくために効果的と考えられる内容を整理した。

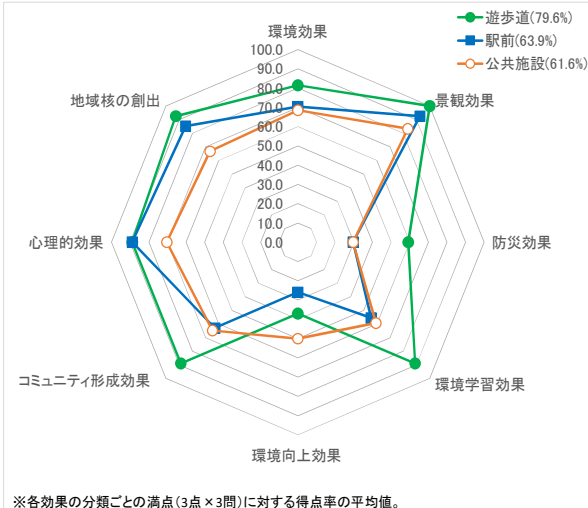
#### <効果が高い条件1>関わる人が多様である場所や多目的に利用される場所

「遊歩道 (79.6%)」「駅前 (63.9%)」「公共施設 (61.6%)」など、緑化場所を視認したり利用したりする利用者が多様であったり、不特定多数の人々が利用する場所において実感効果が高い。

##### ■考えられる要因

上記の場所は、周辺地域の住民や施設利用者など不特定多数の人々が日常的に往来または利用する際に、目につきやすいと考えられる。このような場所では、多くの人々が緑化前後の変化を感じやすく、感謝の声など評価される機会も比較的多くなると考えられることから実感効果が高いと考えられる。

一方で、「公園 (54.1%)」や「ひろば (59.4%)」、「グラウンド (58.3%)」といった場所では、事業実施者と利用者が同じ場合が多いことから実感効果が比較的低くなっている可能性がある。



駅前や公共施設、日常的に人々が往来する散策路や道路等、不特定多数かつ多様な利用者が見たりふれたりできる、人目に付きやすい場所での植樹やプランター設置等を推進する。

⇒中心市街地における小規模な緑化の推進（駅周辺から核となる施設等への主要動線上の街路緑化、歩道等へのプランター設置、商店街等の民間事業者敷地内の緑化 等）

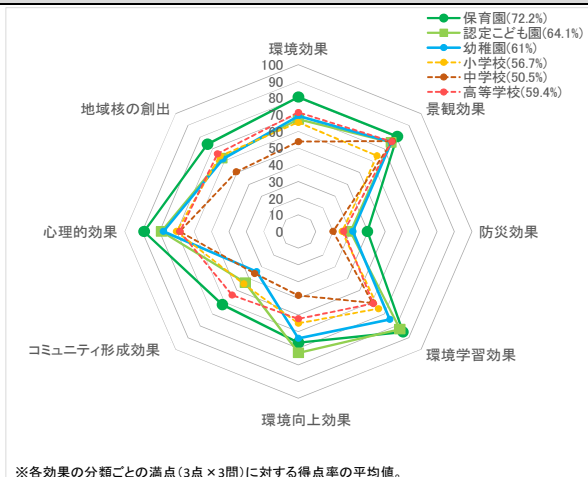
#### <効果が高い条件2>教育環境の向上等、緑化の目的が明確な場所

「保育園 (72.2%)」「認定こども園 (64.1%)」「幼稚園 (61.0%)」など、未就学児の保育環境、教育環境となる場所において実施効果が高い。

##### ■考えられる要因

教育環境向上効果や環境学習効果など、事業実施の目的が明確であるとともに、その目的に対して子ども達の喜ぶ姿や緑とふれあう姿を見ることが効果の実感に直接的につながっていると考えられる。

これらの実施場所では、同じく子ども達の教育環境である「小学校 (56.7%)」や「中学校 (50.5%)」等と比較して緑化面積が比較的小面積(平均緑化面積)であるにもかかわらず、実感効果が高いことも特徴といえる。このことは、無理なく維持管理を行うことができるなど、小面積であることで小学校や中学校での大面積の緑化と比較して維持管理上の課題が小さいことも要因となっていることも推察される。



次世代を担う子ども達が、未就学児の頃から花や緑にふれる機会をつくるため、保育園・認定こども園・幼稚園における園庭芝生化の更なる推進を図る。また、無理なく維持管理できる小面積施工や、過去の事業実施者の体験をもとに効果の実感を得やすい施工場所や活用方法等の工夫を発信・共有するしくみづくり等をあわせて推進する。

⇒校園庭芝生化事業の継続、小面積緑化の推進（事例等から実感効果の高さを用いたPR等）

### <効果が高い条件3>元々緑のある場所よりも、緑が無かった場所

「公園（54.1%）」「緑道・緑地（57.7%）」など元々緑が存在する場所よりも、「空地（63.7%）」などの緑の無かったと思われる場所の方が実感効果が高い。

#### ■考えられる要因

「空地（63.7%）」は元々緑が持ちこまれていない場所であり、事業実施前後の改善状況が確認されやすい。また、低未利用地の有効活用という地域課題の解決に直結していると考えられることから、実感効果が高いと考えられる。コミュニティ形成効果や地域核の創出の効果が「公園（54.1%）」や「ひろば（59.4%）」よりも高いことから、地域課題の解決という点で効果を実感されていることが推察される。



遊休農地などの低未利用地、密集市街地における空き地対策など、地域課題の解決に直結し、新たな花と緑のある場所の創出につながる緑化施策を推進する。

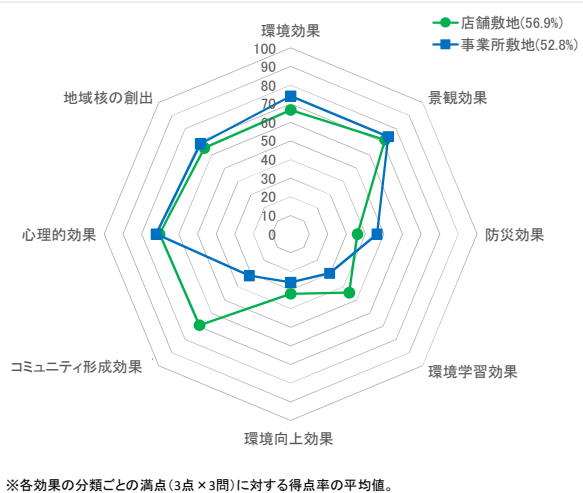
⇒空地等の低未利用地の緑化

### <その他の傾向>民間事業者の実感効果は低い

「店舗敷地（56.9%）」「事業所敷地（52.8%）」等の民間事業者による緑化では、実感効果が比較的低い結果となっている。

#### ■考えられる要因

民間事業者にとって、事業実施の主な目的の一つは企業PRや地域社会への貢献であると考えられ、地域核の創出の効果の実感がやや高くなっているものの、目的に対して緑化が直接的に効果を発現していることを実感することは難しいことがうかがえる。一方で、「店舗敷地」「事業所敷地」いずれも1箇所あたりの平均緑化面積は小さいにもかかわらず、特に「店舗敷地」ではコミュニティ形成効果が高いことから、小面積でも緑化の効果は大きいと考えられる。



民間企業に対しては、景観向上や環境向上の効果を示すなど、外部へPRしやすい効果を示すことなどをふまえ、情報発信・共有のしくみについて検討する。また商店街などの店舗等についてはコミュニティ形成に寄与する小面積での緑化の促進を促す。

⇒事業実施のPRや、事業実施者間または事業実施者と実施検討者間の情報共有のためのしくみとして、SNS等を活用した情報発信・共有の場の創出および小面積の緑化支援による動機づけ